

主催者代表挨拶：関西文化学術研究都市推進機構 常務理事・事務局長

中川 雅永

今年の関西経済は、数年来では最も熱気があり、何か大きな動きがあるかもしれないとの声もあります。新名神等のインフラが着々と整備され、“うめきた”開発も夏までには事業者も決まって開発に拍車がかかり、インバウンドもさらに見込まれると思われま

す。また、大阪万博の誘致の可否が秋には決まります。“いのち輝く未来社会のデザイン”というテーマは、まさにけいはんな学研都市において多角的・多面的に行われている研究にピッタリであり、関西経済の期待も大きいと感じています。開催実現に向けて、我々もできるだけ協力しています。

けいはんな学研都市は、学研都市建設促進法ができて昨年は30年の大きな節目を迎えました。次の30年に向けてさらに努力が必要と関係者の考えは一致しています。これまでの街づくりとは異なり、新たな産業やイノベーションの創出に力点を置いて推進機構も取組みたいと考えています。地域の立地機関も130を超え、さらに新たな企業の進出や、未整備の開発用地の整備も行われます。昨年には、東北の震災被害を受けた県がけいはんなを視察されたり、推進機構の運営を参考にされたり、また、様々な協定をカナダ、タイ、中国などの海外機関と締結し、今度は欧州へも拡大し、イノベーションを進める一環として、国内外とのつながりを広げています。学研の存在感が徐々に高まっていると考えています。皆さんには、今後とも是非ご支援をお願いしたいと思います。



今回の先端シーズフォーラムも、産学の専門家の方をお招きし、様々な分野の先端的な研究成果をお聞きし、新たなビジネスにつなげる機会にするということを目的に開催しました。

今回は「バイオマス利用研究の大海を未来に向けて進む舟」と題し、バイオマス利用とその効用を中心に、それぞれの研究の一端をご紹介します。皆さまもご存じのように、現代社会のあらゆる分野を支えている化学製品やエネルギー。その多くは有限の石油に由来しています。日本はもとより、世界が今後も持続的に発展を続けるためにも、化学原料やエネルギーの確保を考えることは、現代人にとり不可欠です。

2015年の国連サミットにおいても、SDGs(エスディージーズ)(持続可能な開発目標)として17の大きな目標が採択され、日本でも様々な取組が行われています。特にけいはんなにおいても、それを意識して取り組んでいかなければならないと考えております。

今回ご紹介いただく研究や開発事例は、こうした取組のひとつと言えると思います。しかし、タイトルにございますように、その取組は、大きな海に小舟を漕ぎ出し進むような、関係者の皆さまには、様々なご苦労やエピソードもあると思います。

今回は、非常にお忙しい中、関東からお越しのお二人も含めて、四人の専門家にご参加いただき、本当にありがとうございます。

最初に、京都府立大学 大学院教授の宮藤久士様から、バイオマス利用の現状について、その大きな流れをご紹介します。そのうえで、現在研究中の特殊なイオン液体を用いた、森林資源を化学原料に活用する取組についてお話をいただきます。

続いて、けいはんなに立地しています地球環境産業技術研究機構(通称RITE)のバイオ研究グループリーダーの乾将行様から、微生物の優れた物質変換能力を活かした化学品やエネルギー源の開発の研究について、ご説明をいただきます。

これらのお話を踏まえて、フォーラムの後半では、あらかじめ会場の皆さまから頂いたご質問に回答いただきながら、「バイオマス利用に関する現状と今後」について、パネルディスカッションが行われ

ます。

このディスカッションに先立ち、パネリストの森林研究・整備機構 森林総合研究所 新素材研究拠点長の山田様から、「リグニン」の特徴や産業化に向けた取組について、また乳化技術や、独自技術によりカスタマイズした化学製品の提供に強みをお持ちの日本乳化剤株式会社 企画開発部の堀部長様から、イオン液体の開発や市場での活用に関して、お話しさせていただきます。

ディスカッションは、時間の許す限りとはなりますが、会場の皆様にとっても有意義な時間となればと思います。是非いろんなご質問などをいただければと思います。宮藤先生には、コーディネーターとして、ご負担をおかけしますが、どうぞよろしくお願ひします。

最後になりますが、このフォーラムに参加された皆さまの仕事において、何か新たな取組のヒントを得る機会となることを祈念しております。

また、事前にお申込みの方には、17:30から場所を移して、小さな「交流会」もごぞいます。今回のフォーラム全体を通じて、新たな“ご縁”につながる機会になりましたら私どもも大変幸いです。